

調査結果に基づく分析と今後の方向性（中学校）

【国語（中学校）】について

「文脈に即した漢字を正しく書く」や「行書の読みやすい書き方」などの、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については一定の定着がみられます。一方で、「工夫した話し方」や「叙述に即した内容把握」などに課題がみられました。音声などの働きを意識した意図的な話し方などの工夫について、他者との交流から助言し合うなど、具体的な工夫の定着を図ります。また、文章読解においては、心情を表す言葉などに注目し、叙述の細かな違いに注意した読解力の育成に努めます。

【数学（中学校）】について

「データの活用」領域についての問題では、一定の定着がみられる一方で、「数と式」や「関数」領域における知識・技能について課題がみられました。単元や領域のつながりを意識した中で、既習内容を連携させた知識・技能として引き続き定着を図るよう努めます。また、「図形」領域の問題に対しては、与えられた条件や注目すべき性質・関係を見いだすことで、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考える活動から、説明・証明する力の育成に努めます。

【理科（中学校）】について

「生命」を柱とする領域における問題では、一定の定着がみられます。その一方で、「エネルギー」を柱とする領域について、実験結果から考察につなげることや、実験の計画を改善することに課題がみられました。考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返る活動を通して、根拠に基づいた実験計画の検討につなげます。また、活用できる知識及び技能の習得の定着と科学的に探究する活動の充実を図ります。